

愛媛県がん診療連携協議会 令和6年度第2回がん登録専門部会 議事録

日時：令和7年1月22日(水) 14:00～15:40

開催方法：Web 会議(使用会議システム Webex)

進行：寺本典弘(四国がんセンター) 議事録：鎌田美奈子(市立八幡浜総合病院)

参加施設：愛媛県健康増進課、四国がんセンター、松山赤十字病院、済生会今治病院、

住友別子病院、市立宇和島病院、愛媛大学医学部附属病院、愛媛県立中央病院、

四国中央病院、HITO 病院、愛媛労災病院、十全総合病院、済生会西条病院、松山市民病院

済生会松山病院、市立八幡浜総合病院、西条中央病院

開会の挨拶

【四国がんセンター：寺本】

- 新しいメンバーが入ったため、がん登録専門部会の意義、位置づけ、活動について再確認。拠点病院について、がん登録専門部会の Vision についてなど。

愛媛県健康増進課挨拶

【愛媛県健康増進課：田坂】

- 愛媛県においては、四国がんセンターと連携し、がん対策推進計画の策定、がんサポートサイトへひめによる県民への情報提供、がん検診の精度管理にがん登録データ情報を役立てている。
- 国においても医療 DX が推進されるにあたり、登録情報の二次利用について活用の幅が広がると考えられる。今後も質の高いがん登録データベースの構築をお願いしたい。

西条中央病院挨拶

【西条中央病院：上田】

- 公益性、公共性の高い病院として救急、急性期医療から慢性期医療まで幅広い領域で質の高い医療を目指している。
- がん登録の体制は診療情報管理課とがん診療委員会で組織されている。課員3名、うちがん登録担当者2名(初級認定者2名)。
- がん登録の現状については、2018年症例より全国がん登録、2023年症例より院内がん登録を開始。登録件数上位は胃、大腸、乳房。
- 新居浜、西条の二次医療圏であり、居住地別登録の100%がこれを占める地域に根差した病院である。

1. 全国がん登録現状報告

【愛媛県がん登録室：白岡】

- 全国がん登録届出件数が2024年に大きく増加したが、名寄せ作業後の経緯をみていきたい。
- 昨年9月ごろから全国がん登録のシステムが再開。現在2022&23年診断の内容確認と並行して実施した2021年遡り調査が終了。来年度は滞っていた2年分の遡り調査依頼が予定されている。
- 名寄せ作業で発生した問合せ事例について、個人情報を手入力している施設は要注意。届出票作成時、内容確認時に再度注意必要。可能であれば組織内でのデータインポートについての改善を検討されたい。

2. 活動検討委員会からの報告

【四国がんセンター：百済、大平】

- 今年度の目標のもとグループ活動を中心に行った。
 - ☆E-Breeze…夏の専門部会以降 9/26(火)、12/17(火)2回実施。
 - パーソナリティーを中心にテーマに沿って情報交換を行った。
 - 次回3月開催予定。
 - ☆がん登録実務者の育成方法…9/19(木)ミーティング開催。
 - 有志による提出前チェックリストのブラッシュアップ実施中。
 - 完成後は Moodle に掲載予定なのでぜひ活用してほしい。
 - ☆データ利活用…『がん登録でみる愛媛県のがん診療』2023年症例施設別集計冊子の進捗について
 - 現在、初稿の印刷中→1/27 頃から校正作業。
 - 本日、専門部会終了後に「説明ポイント意見交換会」開催。
 - USB 提出データの確認でよく合った内容については提出前チェックリストに折込み予定。
- 今年度までの活動から見えてきた課題
 - 参加者の固定化、参加人数の低下がある。
 - 来年度以降の活動の改善のためアンケートに協力願いたい。

3. 5大がん登録講座開催についての報告

【四国がんセンター：百済】

- 日時：2024年12月7日(土) 9:30-15:00
参加人数：207名（県内48名 県外159名）
講師：国立がん研究センターがん対策研究所がん登録センター 江森 佳子先生
四国がんセンター消化器内科医長 浅木 彰則先生
四国がんセンター消化器内科医長 大野 芳敬先生
佐賀大学医学部附属病院がんセンター院内がん登録室 佐々木 和美先生
四国がんセンター医療情報管理室 新居田 あおい先生
- 講義内容は ICD-0 ルールなど初心者向けから、ケースファインディング、膵癌の病期分類といった熟練者までを対象としたボリュームのある企画となった。
→Moodle に資料と動画の掲載あり。
- 参加者アンケート結果はホームページに後日掲載予定。

4. 院内がん登録の利用規定に関して

【四国がんセンター：百済】

- データ利用に関する規定の整備の根拠は、院内がん登録マニュアルにおいては「データを利用するための手順や規則を定めること」と明記され、がん情報サービスホームページでも「予後情報データを使って院内で研究する場合、当該施設の責任で定められた院内がん登録の規定に基づき、利用方法などが定められていることが前提として利用が可能」との記載があり、そもそも規定にデータ利用に関することが盛り込まれていることが大前提となっている。

- 四国がんセンターでは
 - ① 目的別に分ける ② 利用手順 ③ 審査や審議 ④ 取り扱い ⑤ 運用
 以上をポイントとして整理し規定を整備した。
 →スライド掲載の規定については、事務局に連絡すればデータの提供可能である。
- データ利用申請時の運用については大きく分けて研究利用(倫理審査委員会の承認必要)かそれ以外かで異なる。申請時に聴取する内容、了承を得る内容、提供時に伝える内容が決められている。申請内容に不備なく許可が下りればデータ作成・提供となるが、実務者では判断できない問題が起きる場合があるため、判断が必要な場面においては然るべき立場の者が対応するというシステム作りもお勧めしたい。
- データ利用に関する決まりごとがあることが最重要で、データの利用者や実務者、病院が困らない、データの利活用がしやすい仕組みで、各施設に合ったルール作りが必要である。

5. 院内がん登録の全県集計に関して

【四国がんセンター：山下】

- 愛媛県全県集計の見直しの必要性
 - 施設レイアウトの変更が必要。
 - 指定病院の追加など。
 - 部位分類の検討
 - 国がん全国集計の部位分類がより詳細部位に追加、変更された。
 - 国がんを真似ると細かくなりすぎて県、施設単位で傾向がわかりにくいものあり。
 - 公表データ作成のための労力
 - 集計作業、確認作業、レイアウト調整など。
 - 利用状況(見合った作業になっているか)
 - 集計作業を行う途中でコード、データの整合性の確認→精度管理
 - 報告などに一定量の使用はあったか。
 - より二次利用しやすいデータレイアウトへの検討。
- 他の集計公表値などの利用環境現状
 - 国がん全国集計報告書、結果閲覧システム
 - 部位分類の追加による集計内容の充実、報告書の公表時期について問題なし。
 - 都道府県別、施設別などの集計値や複数年まとめた出力も可能であり、こちらを使えるものは使っていく。
 - 愛媛県の集計と国がん全国集計の違い
 - 国がんの全国集計は、集計施設において初級認定者がいないとデータ提出ができない。
 - 県ではデータをすべて使用するが、国がんは5年ルール適用のため症例区分、治療件数が変わってくる。
 - がんサポートサイトえひめ
 - 現在は主要10部位、今後希少がん(GIST など)増やしていく予定。
 - 患者、住民向けへの情報提供は充実してきた状況。

▶院内がん登録未公表データの利用申請

- 利用申請をしてがん情報データベース委員会でメール審議する流れをつくっている。
- 全県集計で未公表でも研究目的でなく利用したい場合、利用申請をすることでデータ利用可能となる枠組みを整えているので上手に利用していただきたい。
- 秋以降の利用申請の実績は、四国がんセンター3件、済生会今治病院1件の計4件。

● 利用目的の整理と見直し案

▶院内がん登録の利用目的

- 全県集計の目的は、病院、行政(国、都道府県など)が利用できるために、どういった情報を提供しているかという視点で集計していくべき。
- 我々実務者は精度の高いがん登録データベースの構築、維持が求められるため、精度管理のためにも利用。

▶質(精度)の高いがん登録のために

- 対象となる全てのがんが登録ルールに基づき、情報を違えることなく登録されているかということが見える集計値、データの利用が考えられる。
- 精度管理のための利用にも、公表が必要なものと実務者間での共有だけでよいものに分けて整理し集計を提供できればよいと考えている。

▶見直し案

- ほかで利用目的が達せるものは省き、全県集計版(定型集計)として皆様の確認作業を経て公表するものを整理、削減。
- 推進病院でまとめず全施設の施設名と集計値を表記。
- 定型集計として公表が必要となったものは随時追加検討。
- 精度管理の集計とそれ以外の目的の集計に分け、公表するもの、しないものを整理。
- 二次利用促進のために集計値のエクセルファイルを配布。
→自施設内での報告や、利用申請前の予備検討などに利用可能なものを配布できればと考えている。
- 研究利用は愛媛県がん情報データベースへの申請、個別性の高いものは未公表データ利用申請の枠組みを利用。

☆検討中の全県集計版(公表用)の内容としては、診断時住所の二次医療圏別、診療科を意識した大まかな傾向が分かるような部位分類などを考えている。

● 今後の流れと作業のお願い

▶ご意見募集

- 2月中頃までに、見直し方針について公表するボリュームなど(確認作業の量として妥当かなども含め)意見を募集する。

本日のファイルを配布するので、実務者だけでなく病院幹部、他職種の方、診療科の医師など可能な範囲で閲覧していただき広く意見を伺いたい。

▶今年度公表用の集計内容決定。

▶公表用集計値の確認作業(3月末頃まで)

- 自施設の施設名や集計値の確認。
- 冊子の施設別ファイルと一緒に HP に公開。

6. 施設紹介と学会発表報告

【済生会今治病院:矢野】

● 施設紹介

- 拠点病院として今治市、越智郡を担当。
- がん登録を担当しているのは医療支援部門の医療情報課、診療情報管理。スタッフは4名、うちがん登録実務者は2名。
- 2024年のできごととして電子カルテシステムの更新があり、ホスキャンの引越しがあつた。数年に一度の作業のため、マニュアルへの追加を決定した。

● 未公開データの利用申請について

➤困ったことと対処方法

- 医師の欲しいデータ内容の聞き取り作業が困難で何度も聞き取りを重ねた。
- データ利用申請書の保管場所や抽出方法が分からずがんセンター、山下先生に詳細を教えてもらった。
- 自院のデータ利用申請が現在の申請方法に合致していないので整理が必要。本日教えてもらったことを踏まえて見直しをしていきたい。

● 学会発表報告

➤『日本診療情報管理学会学術大会』 日程:8/22(木)ー23(金) 会場:福岡国際会議場

- 「がん登録精度向上にむけた研修会報告」として、専門部会の研修会の内容を発表。
- 発表時間6分(発表)2分(質疑応答)
- 抄録 査読あり:1回再提出を行った。倫理委員会の情報があるとなおよい。
- 抄録、スライドの確認。

➤成果

- マニュアルや提出前データチェックの項目の見直しにより、業務の効率化に繋がった。
- AI や RPA をつかった業務の自動化、スリム化が進んでいることを知ることができた。

➤課題

- データ精査後の結果計測の方法をきちんと設定し、どのくらい精度が向上したかを確認できるようにする。
- データを広く活用してもらうためにはニーズを正確に把握する必要がある。

7. オブザーバー参加について

【四国がんセンター:寺本】

● 鹿児島県がん診療連携協議会、がん登録専門部会に参加。

がん登録専門部会は定期的にゲスト(講演者が多い)を招いてやっているところもある。他県のがん登録専門部会の様子を知ることできるので、興味があればオブザーバー参加することがあればよいのではないかと考えてほしい。

● E-Breeze で他県の方をゲストに招いてみるのもよいのではないかと考えている。

8. がんサポートサイトえひめ報告

【四国がんセンター:寺本】

- がんサポートサイトえひめとは「愛媛県がん対策推進計画」に基づき、愛媛県がん診療連携協議会が愛媛県より受託したがん情報サイトである。
がん登録専門部会と相談支援部会が主体の合同 WG が作成。
 - 現状、今後の展開・予定
 1. 各施設のデータアンケート(2024年12月現在分)
 - 2024年アンケート調査票は HP へ反映。
 - 今年、来年度25年のアンケートを実施。
 2. リンパ浮腫のページ
 - アンケートを基にリンパ浮腫のページを更新。
 - 大西さんの苦勞話。
 3. 希少がんのページ作成始動
 - 都道府県協議会の役割として、希少がんの診療体制について情報整備を求められている。
 - GIST の原案は作成済み。各病院の取り組みを収集予定。
 - 肉腫/中皮腫も予定中。
 4. 拡大ワーキング
 - 開催の要旨が決まり次第案内する。
 5. 若尾班 都道府県がん情報サイト構築支援
 - 電話での問合せあるも、なかなか動き出せない現状にあるようだ。
- ☆拠点、推進病院としては、ホームページにリンクを貼ることが情報公開の役割を担うことにもなる。

次回議事録担当 HITO 病院